

## 環境情報学府リニューアル！

### ■ 目的

近年、「環境」における安心・安全に国民の関心が集まっています。都市や産業プラントなどに安心・安全を確保するための対策や、自然環境の維持・回復など地球規模の問題解決に関わる人材が求められています。

その一方で、近年の情報技術の発展によって、私たちは「情報」が作り上げる環境の中で生きています。その環境における安心・安全を担保する情報セキュリティに加え、IoT、AI、ビッグデータ解析などを発展させて超スマート社会 Society 5.0 を構築するためには、数理科学やデータサイエンスに精通した人材の育成が急務であるとされています。

このような人材ニーズに応えるために、環境情報学府は以下のようにリニューアルします。

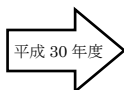
### ■ 概要

環境情報学府は、環境と情報を基軸として学際的な文理融合・異分野融合の視点から教育研究を行い、安心・安全な持続可能社会の創生に貢献する人材育成を行ってきました。このポリシーは変わりませんが、これまでの5専攻を以下の3専攻に再編成し、新たな教育プログラムを実施します。

〈現在の専攻と入学定員〉

環境生命学専攻 (M40名、D12名)
環境システム学専攻 (M40名、D10名)
情報メディア環境学専攻 (M45名、D12名)
環境イノベーションマネジメント専攻 (M11名、D5名)
環境リスクマネジメント専攻 (M37名、D9名)

博士課程前期(M)173名、博士課程後期(D)48名



〈組織改編後の専攻と入学定員〉

人工環境専攻 (M75名、D15名)
自然環境専攻 (M33名、D6名)
情報環境専攻 (M65名、D12名)

博士課程前期(M)173名、博士課程後期(D)33名

学府共通科目として「環境情報リテラシー科目」、「環境情報ジェネリックスキル科目」を置き、以下のような人材を養成します。

- 環境や社会に配慮し、情報技術を活用して、科学技術のイノベーション創出に貢献できる人材
- 個々の専門分野にとどまらず、分野を越えたコミュニケーションの行える人材

その一方で、専攻ごとに専門的な知識と技能を備えた人材を育成します。

## ■ 新たな専攻の人材育成像

### 人工環境専攻

ヒトとモノが作る環境の安心・安全を目指して、科学技術の社会実装における課題を発見し、解決に導ける人材を育成します。

【教育分野】安全工学、環境化学、技術経営学、  
経済学、環境学

【取得可能学位】修士（工学）、修士（環境学）、修士（学術）  
博士（工学）、博士（環境学）、博士（学術）

### 自然環境専攻

生態系や地球環境の保全のために、人間社会との関わりを視野に入れて問題解決を図れる人材を育成します。

【教育分野】地球科学、生命科学、生態学、  
生態リスク学、環境科学、環境法学

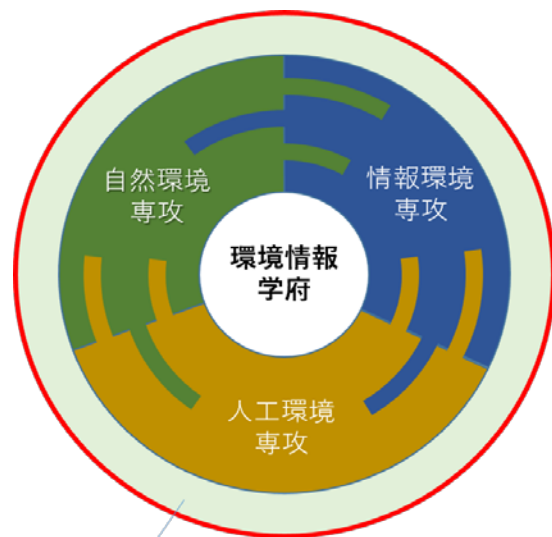
【取得可能学位】修士（環境学）、修士（理学）、修士（学術）  
博士（環境学）、博士（理学）、博士（学術）

### 情報環境専攻

数理科学や情報学の手法によって蓄積されたデータを解析し、社会的価値を創造することのできる人材を育成します。

【教育分野】情報学、数理情報学、数学、計算力学、  
理論言語学、数理社会学

【取得可能学位】修士（情報学）、修士（理学）、修士（学術）  
博士（情報学）、博士（理学）、博士（学術）



環境情報リテラシー科目  
環境情報ジェネリックスキル科目

## ■ 期待される効果

組織改編後のカリキュラムによって、個々の専門分野に精通しながらも、環境と情報を基軸に学際的な文理融合の視点を持った実践的な人材が育成され、縦割りになりがちな社会の横串となって活躍する人材を輩出することになります。したがって、本学府の修了生は、取得の学位から想定される業種はもとより、多くの分野に進出し、以下のような職種に就くことが期待されます。

- 人工環境専攻 安心・安全なシステム構築や管理に関わる職種
- 自然環境専攻 環境保全のためのリスク評価や資源開発に関わる職種
- 情報環境専攻 先端的な情報技術の開発やデータ解析に関わる職種